

スタート

ここでの手順は LPCXpresso 6 または それ以降のVersion向けです。
次のURLから「LPCXpresso IDE」をダウンロードします。
「LPCXpresso IDE」をダウンロードします。
Windows版、Mac OS X版、Linux版があります。
<http://lpcware.com/lpcxpresso/download>

ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始、インストールWizerdに従ってインストールを完了します。
ダウンロードしたLPCXpressoを起動。



使用を開始する前に...

アクティベーションを行わない場合、デバッグコードサイズなどが制限されます

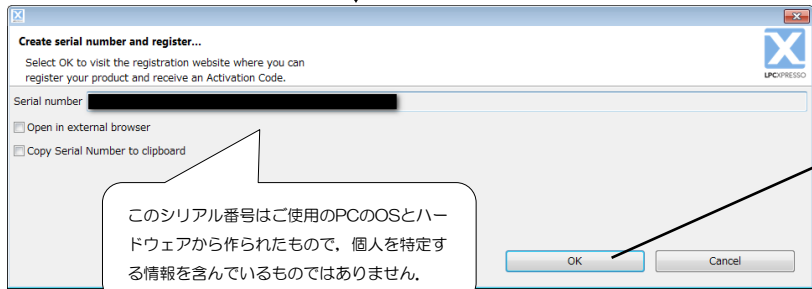
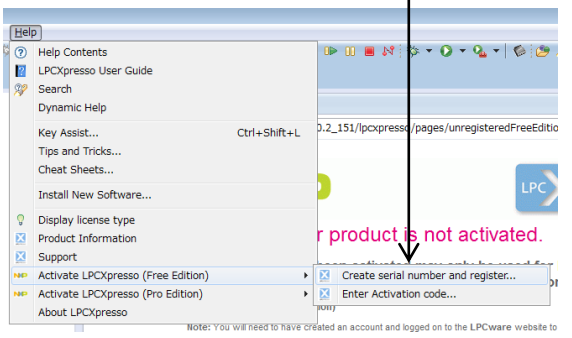
このソフトウェアを使用するには「**アクティベーション**」が必要です。アクティベーションを行う前に、LPCware.comのアカウント作成しログインしてください。

LPCXpressoを起動し、メニューから、
“Help” → “Activate LPCXpresso (Free Edition)” → “Create serial number and register” を選択します。

インストール手順の詳細は…「User Guide」を参照ください。

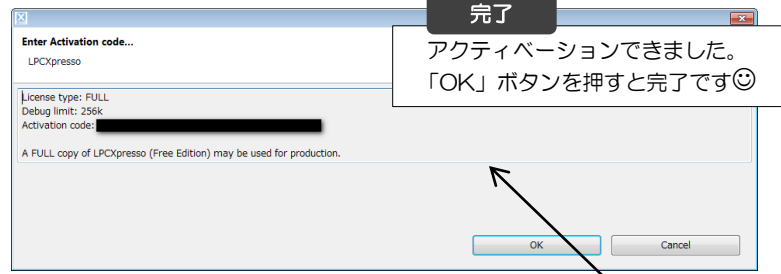
使い方のビデオ公開中

LPCXpressoの使い方ビデオ No.1 (英語)
LPCXpressoの使い方ビデオ No.2 (英語)

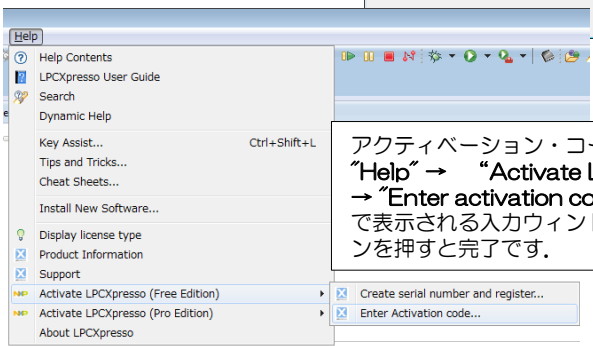
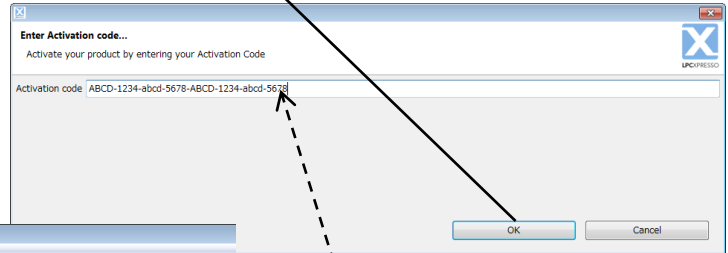


このシリアル番号はご使用のPCのOSとハードウェアから作られたもので、個人を特定する情報を含んでいるものではありません。

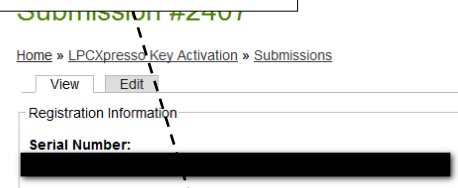
NXP LPCマイコンの情報は… www.nxp-lpc.com



完了
アクティベーションできました。
「OK」ボタンを押すと完了です😊



アクティベーション・コードをコピーし、IDEの
“Help” → “Activate LPCXpresso (Free Edition)” → “Enter activation code”
で表示される入力ウィンドウ内の欄に記入。「OK」ボタンを押すと完了です。

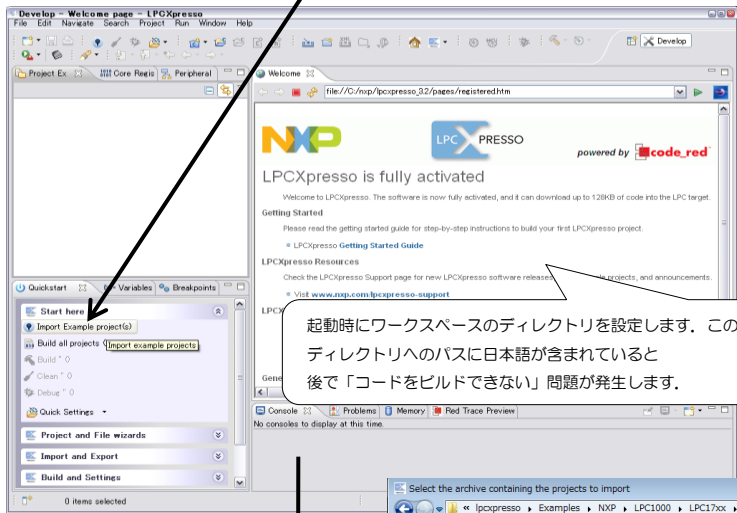


LPCXpresso Activation Key: [Redacted]

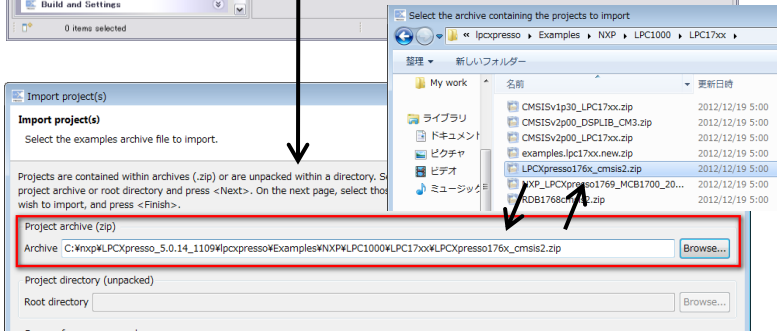
LPCwae.comにログインしていない場合は、ログインしてください。画面右にある「User login」にユーザー名及びパスワードを入力。LPCware.comのアカウントを持っていない方は、登録後ログインしてください。

スタート

前ページのアクティベーションが完了したら、いよいよビルドと実行です。LPCxpressoを起動するとこのようなウィンドウが開きます。このウィンドウの左下のペイン内、Quickstart下の「Import Example project(s)」をクリックします。



起動時にワークスペースのディレクトリを設定します。このディレクトリへのパスに日本語が含まれていると後で「コードをビルドできない」問題が発生します。



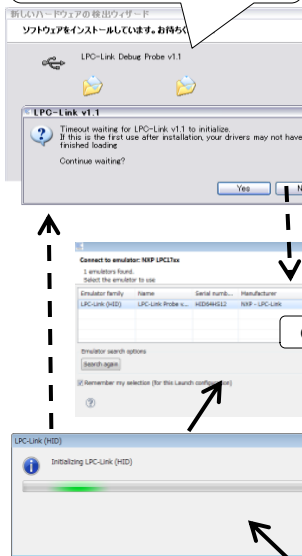
LED点滅のサンプルを選択してみましょう。
下記のzipファイルを選択し「Next」ボタンをクリックします。
C:\npx\LPCxpresso_x.x.xx_xxxx\pcxpresso\Examples\NXP\LPC1000\LPC17xx\LPCxpresso176x_cmsis2.zip

LPC1115の場合、「LPC11xx」フォルダ内のLPC1114向けファイルの中から選択ください。デバッグ前にMCU settingをLPC1115に変更。IDE上部ツールバー内にある「MCU」と書かれたアイコンを押し、ターゲットを「LPC1115/303」へ変更。
LPC11C24の場合も、「LPC11xx」フォルダ内のLPC11C24向けファイルを選択。
LPC1347の場合、「LPC13xx_12bitADC」フォルダから選択ください。

LPC1114のプロジェクトをLPC1115で使いたい、LPC1343のプロジェクトをLPC1347で使いたい方は www.nxp-lpc.com へ。

ここではLPC1769をターゲットした場合の例を示しています。他のLPCxpressoボードをお使いで、xxxx_cmsis2.zipがない場合は NXP_LPCxpressoxxxx_xxxx.zip、LPCxpressoxxxx.zip、examplexxxx.zip または NXP_xxxx_SampleCodeBundleを選んでください。CMSISのファイルは選ばないでください。

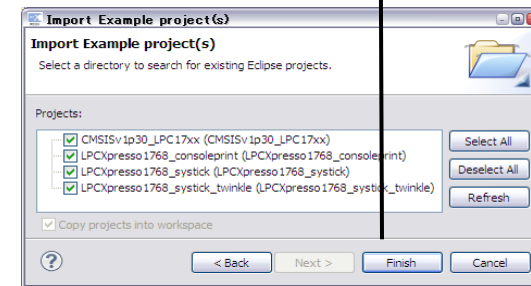
初回はドライバのインストールが行われます。



OK

ウィンドウの左上のペイン内、Project Explorerの下にプロジェクトが表示されます。次に、
(1) 「LPCxpresso176x_cmsis2_systick」を選択します
(2) ウィンドウの左下のビュー内、Quickstart下の「Debug 'LPCxpresso176x_cmsis2_systick' (Debug)」をクリックします。(blinkyの場合は「Debug 'blinky' (Debug)」)

この前に、PCのUSBポートに基盤を接続しておいてください。

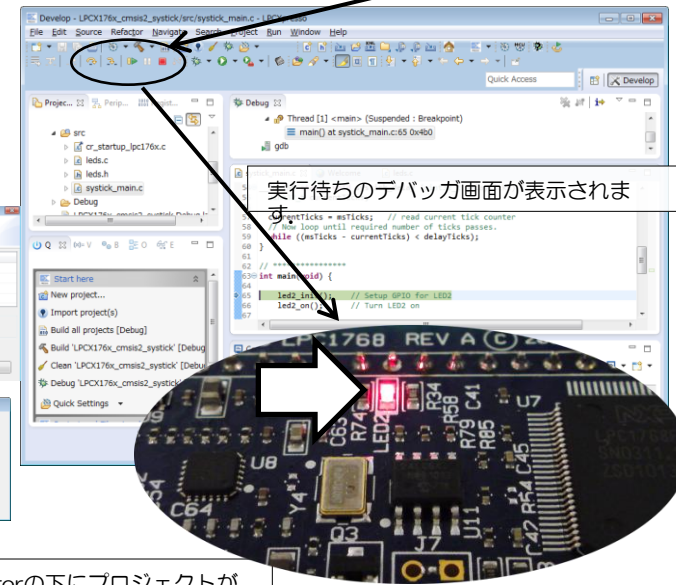


インポートするプロジェクトの選択を促されます。xxxx_systick または blinky というファイルが含まれていることを確認してください。なければ、戻ってインポートファイルを選択しなおしてください。デフォルトはzipファイル内の全てのプロジェクトを選択した状態になっているのでそのままFinish。

緑(三角)のボタンを押すと基板上的LED(LED2)が点滅します



実行待ちのデバッガ画面が表示されます



1

2

Debug 'LPC176x_cmsis2_systick' [Debug]